

クマ引き寄せられる生ゴミ

人の生活圏に出没したクマによる被害が後を絶たない。夏は山に餌が少なくなる季節で、食べ物を探し人里へ来たクマに襲われる事故は多く、警戒が必要だ。7月の2件の死亡事故では、いずれも周辺で食料やゴミがあふられていた。生息範囲が広がったクマと鉢合わせしないために、生ゴミなどの「誘引物」を屋外に放置しないといった予防策が重要となる。



寺の敷地に入り込んだクマ＝4月、盛岡市

専門家指摘 餌と学習、屋外放置は危険

ノクマは1・4倍に拡大。ヒクマの20年度の推定個体数は1万1700頭で、30年間で2倍以上に増えた。

クマによる人身被害や農作物被害を減らすための環境省の「出沒対応マニュアル」では、生ゴミや飼料といった誘引物を示して屋内に保管するといった対策がまとめられているほか、出沒時の対応方法や遭遇した際取るべき行動などが掲載されている。

野生生物に詳しい酪農学園大の伊吾田宏正准教授（狩猟管理学）は「生ゴミをきちんと管理することは重要。いまだ一度、家の周りにクマの餌になるものがないかどうか点検してほしい」と呼びかける。

地域で出沒情報共有個人の対策だけでなく、地域での出沒情報の共有も必要だ。秋田県は全国的な人身被害の増加を受けて住宅へのクマ侵入を住民に注意喚起している。

担当者は「形跡を見つけたら、ちゅうちょせずに自治体や警察に通報してほしい。その情報が近所の人を守ることもつながる」と強調する。

伊吾田准教授は、今後は自治体にクマ対策の専門職員が必須と訴え「国が主導して制度設計していくべきだ」と話した。

臆病な性格のクマが人の生活圏に侵入した理由を、環境省鳥獣保護管理室の佐々木真二郎室長は「餌があることを学習していた」とみる。このように、クマが餌に引き寄せられ執着している状態は「餌付いている」と呼ばれる。

※環境省による	
誘引物	対策
生ゴミ (残飯、廃油、食用油)	■ 屋内で保管し、収集日当日に出す ■ 集積所にクマ対策ごみ箱を設置
農作物 (廃棄する果物や野菜)	■ 土中深くに埋める ■ 電気柵で周囲を囲う
有機肥料や家畜用飼料	■ 屋内で保管し、クマが侵入しないよう設備を強化

12日に新聞配達中の男性が襲われ死亡した北海道福島町では、ヒクマがごみ箱をあさった複数の痕跡が確認された。4日に女性が自宅で襲われ死亡した岩手県北上市でも、事故前から倉庫の食料が荒らされる被害があった。佐々木室長は住宅街への頻繁な出没がある場合、人への襲撃を相当警戒しないとけない」と指摘する。

環境省によると、2003年度と18年度を比較すると、生息している「分布域」はヒクマが1・3倍、ツギ

▲ 7月22日 福島民友新聞掲載

記事から知り得たこと

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

調べてわかったこと、考えたこと

環境省の「クマ類出沒対応マニュアル」を確認し、被害を減らすためにどのようなことができるか、まとめてみましょう。

